

～耐震化への取り組み～

近年、全国各地で巨大地震や豪雨災害が相次いで発生し、水道施設も甚大な被害を受け、多数の世帯で断水するなど大きな影響が生じています。

水道の機能を失うことは、私たちの生活に大きな影響を与えることから、水道施設や管路の耐震化を計画的に進めています。



水道施設の耐震化

水道施設の耐震化には、長い年月と多額の費用が必要になるため、施設の重要度・優先度に応じて計画的に更新を進めています。

浄水場や配水池などの施設の耐震化にあたり、人口の減少を見据えて適正な施設規模に見直しつつ、安全で安定した給水を確保した上で更新しています。



▲耐震化した宮原浄水場の浄水施設

管路の耐震化

口径75mm以上の水道管の更新は、主に耐震性の高いダクタイル鋳鉄管(耐震型継手)を採用し、耐震化を進めています。

ダクタイル鋳鉄管は、継手部に大きな伸縮性や可とう性(曲がったり、しなる性質)と継手が抜けにくい機能を備えており、優れた耐震性があります。市内の地下には約1,400kmの水道管があり、古くなったものから更新しています。



▲耐震管の布設状況(ダクタイル鋳鉄管)